

## 1 学校教育目標

○考える子    ○がんばる子    ○助け合う子    ○元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童・保護者・地域から信頼される学校 ○子供の「心・頭・身体」を育てることを最優先に考える学校 ○教職員だけでなく、各種専門家と共に子供を育てようとする学校
○児童・生徒像	○子供たちがめざして欲しい「扇っ子」の姿を全校に明示する ・「お」・・・「おもいやり」の心を大切にする児童 ・「う」・・・「うんどう」により、体を鍛える児童 ・「ぎ」・・・「ぎもん」を大切にし、自ら学ぶ児童
○教師像	○自らの向上を図ることができる教師 ○学校運営に貢献し、主体的な提案ができる教師 ○学校、児童、地域に誇りをもてる教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[平成31年度の現状]

- 児童    ・基礎学力定着のための全校的な取組を継続させ、学力調査の通過率を向上させる必要がある。  
・学習意欲・学習規律・生活指導等、特別支援教室での指導が必要な児童が複数名いる。
- 教職員    ・学校経営計画に添って判断・行動できるミドルリーダーがいるが、経験が浅い教員が多く課題解決型の授業力を高める必要がある。  
・教職員15名転入。学習指導・校務分掌等の各リーダーを中心に組織が機能するように管理職が把握し必要に応じて組織改編を行う。
- 保護者    ・学校の教育活動に対して協力的な保護者が多いが、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化等において学校の関与が必要な家庭がある。

[前年度の成果と課題]

- 児童    ・学力向上策・補充学習等により基礎学力が定着した。引き続き分かる授業と補充学習等により基礎学力定着を図ることが課題である。  
・大勢の前で堂々と発言できる自信や自己表現力を育てることが課題である。
- 教職員    ・小中連携研究授業・巡回指導（教科指導専門員）等により授業力が向上してきたが、メンタルケア・働き方改革に配慮が必要である  
・若手教員は経験が乏しいため授業力向上が課題である。ICT機器の活用を授業力向上に役立てたい。
- 保護者・地域について  
・地域・保護者は、挨拶運動・地域行事に協力し、地域ぐるみで子供を育てようとしている。  
・PTA活動では、スポーツや学年活動が活発で、教員と保護者の連携が取れている。  
・学校と家庭や地域での子供の様子の違いについてSC等を活用して共通理解する必要がある。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の醸成	○	○	○	○	○
3	教員の授業力向上	○	○	○	○	○
4	小中連携	○	○	○	○	○

## 5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童の基礎的学力の定着		<ul style="list-style-type: none"> <li>・R1 区調査通過率 75%以上</li> <li>・2月 1 学年上問題 80%以上</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月：72.5%</li> <li>・2月：79.0%</li> </ul>		4月調査では2.5%足りなかった。2月調査はあと1%でクリア。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	家庭学習の手引き発行	全学年 全員	年1回 (4月)	【取り組みのねらい・目的】 ・家庭学習の習慣化・協力 ・宿題の提出率を担任が確認 ・提出しない場合、放課後等に課題を終了させて下校	宿題提出状況 調査	・宿題提出率 90%	・全学年 88%	・48%の学級がある。 それを除くと 91.5% になる。	○
2 継続	朝学習 パワーアップ タイム	全児童 国語 算数 読書	火:国語 水:読書 金:算数 始業前 10分	【指導者】担任 【ねらい】復習・確認 【使用教材】 漢字、文法、読解問題、 計算プリント、読書 等	単元テスト ・全校共通ソフトに 入力し毎月確認	・単元テストで 正答率 80% 以上	全学年国語 64.5% 全学年算数 59.6%	2教科平均で80%を達成したのは2/12。国語5年、算数5・6年が特に低い。	△

3 継続	補習教室 (A補習)	全学年・ 各教科	随時 休み時 間や放 課後等	【指導者】各担任・専科 【ねらい】指導中内容の定着 【使用教材】 授業で使った教材・プリント	定着度確認テ スト 9・12・2 月に実施	2月の定着度確 認テストで目標 値を通過する対 象児童80%	全学年国語 79.4% 全学年算数 78.5%	わずかに届かなか ったが1月からのC補 習の効果が現われて いる。	△
4 継続	放課後補習 教室 (B補習) 「扇チャレンジ」	全学年  国語、 算数	放課後	【指導者】各学年担当者 (担任・非常勤教員・管理職) 【ねらい】つまずき解消 【使用教材】 ・定着度テスト対応問題 ・次へのステップ ・ミニ作文ワーク(追加) ・東京ベーシックドリル 等	定着度確認テ スト 9・12・2 月に実施	2月までに実施 する定着度確認 テストで目標値 を通過する対象 児童80%	9月校内調査  2教科合計：81.6%  2～6年国語：84.6% 2～6年算数：78.5%	前学年までの躓きに ついては80%程度の 児童が目標値を通過 するレベルに達し た。	○
5 継続	サマー ウィンター スプリング  スクール	全学年 算数 国語  各学年10 名程度 正答率 70%以下 を中心 に。	夏休み 10日  冬休み 1日  春休み 1日	【指導者】 担任+専科等+管理職 【ねらい】 担任による少人数指導。つま ずきの解消。解けなかった問 題の解き直し。理解が完全で ない内容の補充。 【使用教材】 ・プリント教材 ・次へのステップ等	校内学力テス ト	次回の校内学力 テストで正答率 アップ	夏：320名(10日) 冬：155名(1日)  9月調査結果 国語：84.6 算数：78.5	サマースクール後の 調査では、正答率・ 通過率の向上が見ら れた。	○
6 継続	かけ算九九 検定	2年生～	2年生 かけ算学 習開始時 ～ 3年生 以上 年間(4 月～)	【指導者】 担任・専科・学習支援員等 学力向上委員会担当を割り 振り、完全習得をめざす。 【ねらい】 かけ算の完全習得(暗唱) 【使用教材】 かけ算九九チェックリスト	定着度確認テ スト (対象児童)	2年生 2月末までに 90%習得  3年生以上 6月末までに習 得	2年生：97%  3年以上：99.3%	2年生は目標である 90%を達成した。 3年以上では、6月ま でに習得し、さらに 学年末に向けてもう 一度検定を実施中。	◎
7 継続	漢字 マスター	全学年	1年生 漢字学習 開始時～ 2年～ 年間	【指導者】 担任・専科・非常勤教員等 【ねらい】配当漢字完全習得 【使用教材】 漢字マスタープリント	漢字マスター プリント	・児童には「100 点を取る」と いう目標設定 ・90%以上習 得8割以上	全体72.8%	半数の学級で80%以 上、残りの学級では 達成率が低い。	△

8 継続	読書・読み聞かせ活動	全学年	年間	【指導者】 各担任・図書ボランティア 等 【ねらい】 読書習慣の定着・語彙の獲得・知的好奇心の涵養。 【使用教材】 記録用カード	記録用カード 題名とページ数を記録 *担任や図書ボランティアによる読み聞かせもカウント	・1～3年 80冊/年 ・4～6年 6000頁/年 上記の数値を各学級の50%以上が達成	現在まで 1～3年：42.7% 4～6年：51%	低学年は半数の学級でクリア、高学年は1学級以外はクリア。	△
9 継続	今月の俳句	全学年	毎月 (月別テーマ)	【指導者】校長・各担任 【ねらい】 表現力・言語感覚の向上 【使用教材】 今月の俳句用紙	優秀作品紹介 校長室前掲示 葉の授与	コンクール応募 炎天寺一茶祭 きごさい 伊藤園新俳句	炎天寺：入賞有り きごさい：267句 伊藤園：1272句	炎天寺以外は受賞結果待ち。「きごさい」は一人1句の規定。伊藤園は応募数増加	○
10 新規	MIMによる指導の充実	1年 そだち指導	年間 国語・そだち 補充 家庭	【指導者】 1年担任、そだち指導員 【ねらい】 MIMの確実な定着 【使用教材】 「ことばのプリント」	MIM 実施状況を毎月確認	1月に1stステージを85%	1月の結果 1組：80% (20/25) 2組：80% (20/25)	どちらのクラスもあと5人が達成できなかった。今年度新規項目であり、目標設定を検討。	△
11 継続	学力向上委員会活動 (SP表分析・個人カルテ作成)	教員	学力調査後 単元終了後	【体制】 学力向上委員・管理職 ・学力定着指導員 【ねらい】 ・自校採点や資料作成 ・SP表分析 ・個人カルテの作成 等、 ・アクションプラン実施確認 ・年度末反省	学力向上委員会での検討・報告	・個人カルテ：調査終了後 ・SP表分析：調査終了時 単元テスト終了時	定例会議を毎月確実に実施。必要に応じて臨時会議も実施。	アクションプランの実施や調査結果の分析についてリーダーシップを発揮した。	○

重点的な取組事項－２		児童の自己肯定感の醸成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の自尊感情を高め、母校愛や郷土愛を育む。		児童による「生活がんばりカード」や、ふれあい月間調査で良い項目を70%以上にする。	「よい」に該当する割合82.5% (低学年93%、高学年72%)	目標を達成することができたが、高学年についてはさらに向上させたい	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
全校朝会等の場での児童、教職員、保護者の活躍を賞揚	機会があるごとに全校朝会等で表彰、賞賛、善行紹介を行う。	児童のよさを具体的に認めて学校全体に広がるようにする。また、他の人のために努力している児童を積極的に紹介する。	俳句・スポーツなど児童の表彰をした。PTAスポーツ大会について保護者や教員の活躍も賞賛した。	意図的・計画的に賞賛する内容を準備することで、認められる児童が多くなった。	○
自己実現・発表の場を設ける。	学級・学年を単位として、全校児童の前で堂々と表現できる。	各学級1回以上、音楽や音読発表など、全校児童の前で表現する。発表に向けて、学年の学習内容・発達段階に応じた表現力を育成し、児童一人一人の自己有用感を高める。	学年ごとの発表が多かったが、音読やかけ算九九の暗唱など、学年の発達に応じた内容を発表した。また、発表会に向けてめあて意識をもち、努力させることができた	発表会に向けてめあて意識をもち、努力させることができた。大きな声で自信をもって発表するには、さらに努力が必要。	○
外部講師による体験活動を実施。	全学年で1回以上の体験活動を行う。オリンピック・パラリンピック教育としても外部講師を招聘した体験活動を計画的に実施し、充実させる。	外部専門家講師による授業を継続。(落語・手話・点字・スポーツ選手等)東京都や地域の諸団体の出前授業に応募して講師を確保する。地域の優れた人材を見つけ、体験活動を指導してもらう。	長年継続して依頼している講師(点字・手話・落語)と、年度ごとに種目を変えて依頼するスポーツ選手等(縄跳び)をバランスよく招聘することができた。	地域人材の掘り起こしをすすめ、体験活動の充実につなげていきたい。	◎
扇小学校創立五十周年記念事業を通じて、愛校心や地域への郷土愛を醸成する。	母校や地域に誇りを持ち、記念事業にふさわしい態度で参加することができる。	扇小学校の歴史を振り返る活動や記念集会等を開催。学校設立協力者や地域の方、各方面で活躍している卒業生などを招待して交流会を開催。	「創立50周年」という言葉を多用して校歴の重さを伝えることができた。地域・保護者とともに周年を祝うことで愛校心や郷土愛を高められた。	本校卒業生がオリンピック出場決定という情報は、愛校心の向上に効果があった。	○

重点的な取組事項－3		教員の授業力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
課題解決型指導方法の確立 (国語・算数を中心に)		各教科について、「足立スタンダード」またはそれに準ずる課題解決型指導方法を全教員が共通実践する。板書や児童のノート指導等の全校統一を徹底する。	国語・算数の足立スタンダードについて、全教員が共通実践している。	ノート指導（見開き使用等）についてはさらに徹底が必要。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
課題解決型の授業を行う。また、授業公開と授業参観により自らの指導法改善・工夫に取り組む。	授業公開・参観をそれぞれ、年間3回以上行う。達成状況の判断は管理職が行う。	年間3回以上の授業観察を基に管理職と教科指導専門員・他の教員が授業観察を行い、「授業チェックリスト」「若手教員育成シート」に基づいて改善させる。	○自己申告、道徳授業等で管理職が4回以上の観察をした。 ○4回行った校内研究授業において、全員が「授業チェックリスト」に記入して授業者に渡した。	「若手教員育成シート」を前後期に分けて作成したが、その内容を本人が授業改善に役立てていることをしっかり確認する。	○
校内研究会・研修会の実施	小中連携授業研究とは別に授業研究会・指導法の研修会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新指導要領の移行期間や完全実施に関する研修。</li> <li>・足立スタンダードを理解する研修。</li> <li>・新規導入されるICT機器やタブレットPCの活用方法の研修。</li> <li>・全教員による協議会を行う授業研究会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数・国語・音楽・外国語活動について、研究授業を行った。</li> <li>○6年国語の授業では、児童が一人一台のタブレットPCを活用する授業を展開した。</li> <li>○小中連携の研究会では自分が所属している分科会の授業しか見られないため、全員で同じ授業を見て協議することが深い学びにつながった。</li> </ul>	低学年・中学年・高学年・専科のそれぞれから代表者が授業をした。教科を絞って研究することにより、さらに学びを深めることができる。	○
教育研究会への参加	区小研への参加80%、各年次研への参加100%、区内外の教育研究会等へ2回以上参加。	区小研、各年次研参加は原則悉皆。区内外の研究会等への参加を奨励し、教科主任には指導教諭公開授業に参加させる。研修後は校内に伝達講習をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○区小研への参加90%</li> <li>○年次研修100%</li> <li>○指導教諭公開授業には各主任が参加した。</li> <li>○校務分掌に合わせて、一人2回以上の研修に参加できた</li> </ul>	研修会が重なり、学校1名の参加ができなかった。タブレットPC活用研修は講師に問題があり、追加研修を受講した。	○

重点的な取組事項－４		小中連携（扇小-江北桜中、高野小、江北小）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
9年間の指導の連続性・系統性を生かして基礎学力の定着と授業力向上。		種々の交流の機会を作り、年間20回以上を目標とする。	年間21回交流した。	回数だけでなく内容を充実させる。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中教員相互の連携	授業力向上のための研修会・授業研究・及び共通課題の解決に向けた研修を年7回以上行う。また、保健部会を中心にして、生活指導や特別支援に関する情報交換を密にする。	○合同研修会を行う。 ・児童生徒理解 ・教科の系統性・連続性確認 ・足立スタンダード型授業 ○小中4校1回ずつ研究授業 ・6分科会ごとに実施・協議 ○特別支援・保健の情報交換	合同研修会（全体会②・指導案検討①、授業研究④・夏季研修会①）を8回行った。	6分科会に別れて、指導案検討や研究協議を盛んに行った。分科会の分け方や外部講師の招聘が課題。	○
児童・生徒の連携	児童生徒の交流を年3回以上行う。	○サマースクール補助の生徒 ○小学生が中学校運動会参観 ○小学生が中学校の文化的行事に参観・参加 ○生徒会役員が小学校に来校し、学校紹介・説明会 ○部活動体験会に6年生が参加し体験	○相互の体育的・文化的行事における参観及び交流④ ○部活動体験、学校紹介② ○地域行事⑤	創立50周年行事の年ということもあって、訪問する中学生の人数が多かった。江北桜中学校の校舎が近くなり、移動が楽になった。	○
生活指導の連携	○交通安全・生活安全について小中で共通した指導を行う。 ○課題のある児童生徒の共通理解。	○生活指導部を中心に、発達段階に応じた内容・方法で、統一した指導を行う。 ○定期的に生活指導上の情報交換・合同研修会を行う。	○生活指導の問題解決②	下校後の生徒の問題行動について、両校が協力して指導できた。	○
地域やPTAの連携への協力	小中学校PTA主催行事、地域行事に教員、児童を計画的・積極的に参加させる。	○地域行事、PTA主催行事に児童延べ100人派遣する。また、小中連携講演会等に延べ10人以上の教員を参加させる。	○ウォークラリー 50名 ○クリスマスコンサート 40名 ○ビーチボール大会 30名 ○上記行事に教員 15名	各行事は定番化しており、参加者の募集。引率もスムーズである。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ①学力向上アクションプランの徹底

- ・一部のプランにおいて目標値を下回った。自分達で決めた目標を必ず達成できるように進捗状況を確認するとともに、必要な指導・支援を行う。

#### ②児童の自己肯定感の醸成

- ・アンケート調査においては「学校が楽しい」等と答えているが、個別に見ると支援が必要な児童も多い。校内の教育相談組織を生かして、全ての児童が「楽しい」と感じることができるよう、一つ一つの教育活動を吟味し、改善していく。

#### ③授業力向上の継続

- ・タブレットPCの活用など教員の努力が認められた一方で、教員個々の指導力については成長に個人差がある。各自が自分の特徴や課題を明確に理解し、授業力を向上させられるように自己評価・相互評価活動を充実させ、管理職等からの指導も継続して行う。

#### ④小中連携の強化

- ・教員の連携について基本的な年間計画が整った。今後は、それぞれの提案授業や協議会の質的向上を求めて、講師招聘等を行う。
- ・児童や生徒の交流についても基本の形が相互理解できた。今後は新規活動を企画・実施してさらなる充実を図る。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

①本校では教員が日々の授業改善に取り組み、「分かる授業」の実現を目指して努力しています。家庭学習や持ち物の準備など学習環境の整備については引き続きご協力をお願いします。

②足立区の教育施策として、学習支援員やそだち指導員による個別の学習指導を充実させています。必要な児童に必要な支援を今後も継続しますので、各担任を窓口としてご相談ください。

③道徳授業地区公開講座など、保護者や地域の方に参加していただく教育活動があります。さらに多くの方がご参観・ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

④令和2年度からは、言語能力・情報活用能力の育成を強化していきます。これまで以上に「図書ボランティア」を増員し、読書・読み聞かせ活動の充実を図りたいと思います。ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

「お・・・おもいやり、う・・・運動、ぎ・・・疑問」を合い言葉として、児童の「頭・心・身体」をバランスよく育てる。そのために、これからも子供の現状を正しく把握し、必要な改善策を実施していく。そして、素直で活発な扇っ子たちが伸び伸びと育つように、教職員が一丸となり、保護者や地域との連携を強化しながら取り組んでいく。